

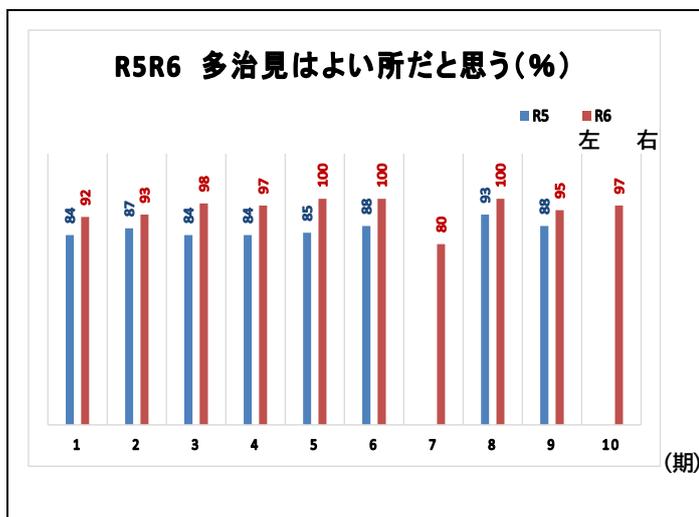


土曜学習「わがまち 多治見大好き講座」 R6 一年間のまとめ

1.ねらい

多治見市の伝統・文化・産業等について学ぶことができる貴重な機会であり、参加者や保護者からも好評を得ています。特にR6は、多治見に愛着をもち、多治見がよくなることを願い、行動できる人材が増えることを目標として実施しました。

2.実施直後のアンケートより



- ・勇気を出して講座に参加してよかった 100%
- ・多治見はよい所だと思う 98%
- ・多治見がもっとよくなるとよいと思う 98%
- ・自分も多治見のために何かしたい 90%

(例 ボランティア・よさを広める・将来関わる)

・多治見の文化や歴史を、熱い思いをもった専門家から体験を通して学び、学校区・学年・兄弟姉妹の枠にとられず活動グループを組み、心のつながりをもつことにより多治見への愛着が湧きました。また、90%の参加者が、自分も多治見の一員なので多治見のために何かしたいと願いをもつようになりました。さらに、行動に移す人が増えることが課題です。

※R6 参加者 766 人(うち中学生ボランティア 111 人)

3.教育行政評価報告書に関するアンケートより

「多治見市に愛着がありますか」の質問に「ある」「どちらかといえばある」と回答した市内児童生徒の割合
95.7% (小学校低学年) 88.9% (小学校高学年)
76.1% (中学生)

※令和5年度 91.6% (小学校) 72.8% (中学校)

多治見市全体でも多治見に愛着をもつ児童生徒は確実に増えてきています。

※昨年度、様々な場面で、土曜学習にご尽力いただき、本当にありがとうございました。

令和7年度 土曜学習の重点的に取り組む課題に応じた目標

背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために 令和7年度に実施する具体的な取組	左記具体的な取組のうち、令和6年度における取組の評価・分析を踏まえた取組	本事業で達成する目標
<p>H12をピークに人口減少・少子化となっているので、持続可能な社会の構築が課題である。</p> <p>地域と関わり、地域の活動に参加する児童生徒が、全国平均より少ない現状があったが、全国学調では「地域をよくするために何かしてみたい」と考える児童生徒は全国平均に近づいてきた。</p> <p>また、R6の実施後のアンケートに「多治見がもっとよくなるとよい」と98%が回答。受講者の地域に対する意識は高まっている。</p> <p>さらに、多治見に愛着をもち、多治見がよくなることを願い、多治見の抱える課題を解決できるよう、行動できる人材が増えることが課題である。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 学校の働き方改革の推進 多治見市内の全小中学校の代表として、地域学校協働活動推進員が地域と調整する。 課題解決を意識した郷土学習の推進 ①ふるさと多治見について地域資源を理解し、その魅力を、体験を通して地域住民から学ぶ。 ②ふるさと多治見の魅力を継続・発展させるため、現状を知り、課題を明確にする。 ③縦割りの少人数グループを構成し、中学生ボランティアをリーダーに、退職教員から成る土曜学習サポーターを補助者として温かいつながりを築く。 ④自分も地域の一員であることを実感し、多治見の魅力や課題を「自分事」として感じるようにする。 ⑤将来多治見がどうなっていてほしいか、夢(理想像)を考える。 ⑥⑤のために今と将来にわたっての両面から自分にできることは何かを考える。 	<p>・受講後のアンケート結果より 多治見はよい所だと思う 98% 多治見がもっとよくなるとよいと思う 98% 自分も多治見のために何かしたい 90% (具体例 ボランティア・よさを広める・将来この仕事に就きたい) 90%の参加者が自分事ととらえ、多治見のために何かしたいと願いをもった。また、R6の全国学調では「地域をよくするために何かしてみたい」と考える児童は全国平均になり、中学校では全国平均を5%上回った。しかし、将来の夢や目標をもっている児童が77%で、県や全国平均の80%越えに対して低い。そこで、将来の夢や目標を多治見と関連してイメージできるように⑤⑥を以下のように変更して問いかける。 ⑤→100年後の多治見のまちや仕事を考えよう!! ⑥→未来の自分へのメッセージを送ろう!(私はこんなことやってみたい!そのために何をやる?)</p>	<p>・地域・学校・家庭が連携・協働して、自主的・継続的に、多治見に愛着をもち、多治見がよくなることを願い、それを自分の夢や目標の一つとして掲げ、行動できる人材を増やす。</p>